

# トヨタ 炭素除去・カーボンクレジット方針

私たちトヨタ（以下、私たち）は、「トヨタフィロソフィー」に基づき、「幸せの量産」を通じて地域の皆様から愛され頼りにされる町いちばんの会社を目指しています。また、私たちはトヨタ環境チャレンジ 2050 の達成に向け、ライフサイクル全体での温室効果ガス排出量削減に取り組んでいます。本方針は、温室効果ガス排出量削減が最優先であることを改めて明文化し、その上でカーボンニュートラル達成のための炭素除去およびカーボンクレジットの考え方と利用原則を定めるものです。

## 1. 温室効果ガス排出量削減を最優先

私たちは、クルマの走行時だけでなく、材料製造、部品製造、車両製造、物流、燃料製造、廃棄・リサイクルなど、ライフサイクルのすべてのプロセスにおける温室効果ガスについて排出量削減を最優先に取り組みます。

## 2. 高品質な炭素除去・カーボンクレジットを活用

私たちは、炭素除去・カーボンクレジットの品質に対して、現行の国際的なガイドラインを踏まえた厳格な自主基準を設け、その基準に合致するものを活用します。

## 3. 透明性の高い情報開示

私たちは、炭素除去・カーボンクレジットの活用について、国際的なルールに沿って、高い透明性での情報開示を行います。

## 4. 多様な炭素除去の取り組み

私たちは、多様な炭素除去がそれぞれ重要な役割を果たすと認識した上で、様々な方法論の活用や技術開発を検討していきます。

## 5. 町いちばんの会社を目指した地域貢献

私たちは、炭素除去・カーボンクレジットに関する取り組みを地域社会への貢献機会と捉え、自社拠点での炭素除去やバリューチェーン内での活動を通じた地域貢献を可能な限り進めていきます。

## 【炭素除去・カーボンクレジットの品質について】

カーボンクレジットはプロジェクトのタイプによって排出回避・削減系と吸収・除去系に分類されます。私たちは、トヨタ環境チャレンジ 2050 などの目標達成に向けて、実際に大気中の温室効果ガスを除去・貯留する炭素除去および、そのプロジェクトから創出されクレジット化された除去系クレジットを活用します。炭素除去は、植林やブルーカーボンなどの自然を活用した自然系と大気直接回収や風化促進などの技術系にさらに分類できます。自然系の炭素除去・除去系クレジットを中心に活用を進め、2050 年のカーボンニュートラルに向けては、他の様々な方法論も含めた最適なポートフォリオを模索していきます。

炭素除去・カーボンクレジットの品質基準については、ICVCM (The Integrity Council for the Voluntary Carbon Market) 等の国際的なガイドラインが定めている規格を前提に、トヨタ炭素除去・カーボンクレジット方針に沿った独自の品質基準を策定しました。また、品質基準を満たした炭素除去・カーボンクレジットの創出・購入に向けて、自律的に確認・実施できるように、品質基準項目を確認するチェックシートを作成しました。

- (1) **効果的なガバナンス** (例：認証制度において贈賄や腐敗防止措置が講じられている)
- (2) **トラッキング** (例：償却の仕組みやレジストリーが整備されている)
- (3) **透明性** (例：プロジェクトに関する文書や方法論が公開されている)
- (4) **独立した第三者検証** (例：ISO14065 等に準じる VVB の利用が定められている)
- (5) **追加性** (例：投資分析や障壁分析、一般慣行分析が定められている)
- (6) **耐久性** (例：反転の補償制度やメカニズムが定められている)
- (7) **除去量の定量化** (例：保守性の確保が講じられている  
不確実性の評価が定められている)
- (8) **ダブルカウント回避** (例：二重発行防止措置がある)
- (9) **持続可能な開発** (例：生物多様性、先住民と地域コミュニティ、  
人権等を尊重する規定がある)
- (10) **その他** (例：ヴィンテージ、カントリーリスク等)

炭素除去・カーボンクレジット制度に関しては、まだ国際的な議論の途上であると認識しています。本方針もそうした議論の状況に応じて改定を加えていく予定ですが、私たちが、町いちばんの会社を目指しつつ、グローバルな問題である気候変動の緩和に向けて全力で取り組むことには変わりありません。私たちは、ぶれない軸を持ちながら、時代に合わせて方針を見直していきます。